

2023年5月19日

各 位

会 社 名 株式会社 シーズメン  
代表者名 代表取締役社長 三河 宏彰  
(東証スタンダード・コード 3083)  
問合せ先 管理部副部長 保住 光良  
(TEL 03-5623-3781)

## 上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について

当社は、2021年12月17日にスタンダード市場の上場維持基準への適合に向けた計画を提出し、その内容について開示しております。2023年2月28日時点における計画の進捗状況等について、下記のとおり作成しましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 上場維持基準の適合状況の推移及び計画期間

当社の2023年2月末時点におけるスタンダード市場の上場維持基準への適合状況はその推移を含め、以下のとおりとなっております。2023年2月末時点においては、「流通株式時価総額」については基準を充たしておりません。

なお、当社の試算によりますと、直近3ヶ月である2023年2月1日～2023年4月末までの終値平均(929.26円)による流通株式時価総額は基準を充たしており(流通株式時価総額15億円)、現状においては、スタンダード市場における全ての上場維持基準に適合している状況にあると認識しております。

当社は、2025年2月末時点におきましても上場維持基準の適合を維持するために、各種の取り組みを進めてまいります。

	株主数 (人)	流通株式数 (単位)	流通株式時価総額 (億円)	流通株式比率 (%)
当社の状況 (移行基準日時点)	1,038人	14,699単位	5.4億円	50.9%
当社の状況 (2023年2月28日時点)	2,876人	16,858単位	9.3億円	58.47%
上場維持基準	400人	2,000単位	10億円	25%
2023年2月28日時点の適合状況	○	○	×	○

## 2. 上場維持基準の適合に向けた取組の実施状況

当社は2021年12月17日に公表しました計画書において、スタンダード市場の上場維持基準の適合に向けた取組の基本方針、課題及び取組を定めました。計画に基づいた取組の実施状況は以下の通りです

### (A) 売上停滞に対して耐久性の高いコスト構造の改善

保守的な売上見込に基づき、それでも赤字にならないコスト構造の構築に向けた各種取組を実施します。

#### (ア) 赤字店舗のさらなる閉鎖

株式会社シーズメンで10店舗、子会社である株式会社チチカカで17店舗、シーズメングループで合計27店舗の閉鎖を行いました。

#### (イ) グループ会社間での業務効率化によるコストシナジーの創出

子会社であった、株式会社スピックインターナショナルを吸収し、本部機能を一元化いたしました。

### (B) 既存店舗の売上回復に向けた取り組み

コロナ禍において激減した各店舗の売上回復に向けて、商品面や販売面での取組を強化します。

#### (ア) 消費者の新たなライフスタイルに合わせた商品開発

「流儀圧搾」ブランドではキャラクター商品の強化、「TORNADO MART」ではルームウェア、「HIGH STREET」ではゴルフラインの新規立ち上げを行いました。

#### (イ) グループ会社間での商品開発・販売面でのシナジー創出

新たな取り組みとして、子会社であるチチカカブランドのレディス商品をシーズメンの店舗で展開し、女性客へのアプローチを強化する取り組みを進めてまいりました。

### (C) 新たな事業の柱の構築

#### (ア) メタバース・ファッション事業

2021年10月、メタバース領域におけるアバターの衣料品を現実に商品化する

「POLYGON TAILOR FABRIC」ブランドを開始しました

また、2021年12月には、逆に現実のファッションブランドがメタバース領域に参入することを支援する「POLYGON TAILOR IMPORT」事業を開始いたしました。

### (イ) オフプライス事業

前期に引き続き、アウトレット催事の専門チームによる取り組みを進め、商業施設の催事スペースにてセール催事を実施してまいりました。

また、催事における集客を図り、セール商品の販売を促進するため、「駄菓子」を取り扱う業者とのコラボレーションによる催事企画を実施いたしました。

### (ウ) コンサルティング事業

社内の内製化している各種機能を活用し、他のアパレル企業・小売企業へのサービス提供につきましては、準備段階にあり、当期における実績はございません。

## 2.1. 目標数値

(当初計画)

(百万円)

	2022年2月期見込	2023年2月期計画	2024年2月期計画	2025年2月期計画
売上高	4,540	8,101	8,443	8,469
営業利益	▲320	25	135	150

(実績及び修正計画)

(百万円)

	2022年2月期実績	2023年2月期実績	2024年2月期計画
売上高	4,163	6,305	6,050
営業利益	▲183	▲256	60

2023年2月期の実績につきましては、売上高6,305百万円（計画比△22.2%）、営業利益△256百万円となり、計画を大幅に下回りました。理由につきましては、当該計画は2021年12月17日に公表しておりますが、当時想定していたより、新型コロナウイルスの影響が長期化したことによる市場の停滞、売上減少によるものであります。

現在におきましては、2024年2月期の業績予想として、売上高6,050百万円（前年同期比△0.2%）、営業利益60百万円を2023年4月13日に公表しております。

## 2.2. 非流通株式から流通株式への移行

普通銀行である、りそな銀行が保有していた30,000株の売却を進めました。

## 3. 取り組みに対する評価

2023年2月末時点における流通株式時価総額は9.3億円であり、スタンダード市場の上場維持基準である10億円に迫る水準にあります。また、当社の試算によりますと、直近3ヶ月である2023年2月1日～2023年4月末までの終値平均（929.26円）による流通株式時価総額は基準を充たしており（流通株式時価総額15億円）、現状においては、スタンダード市場に

おける全ての上場維持基準に適合している状況にあると認識しております。  
当社の取り組みは、市場より一定の評価を得ているものと考えております。

#### 4. 今後の課題と取組み

今後につきましても、2021年12月17日に提出いたしました計画書における「上場維持基準の適合に向けた課題と取組み」に記載の内容を継続して進めてまいります。

以上